

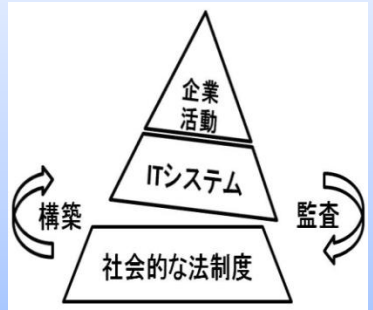
セキュアトロポス (secure Tropos) による内部統制のモデル化

東芝ソリューション(株)

河本 高文

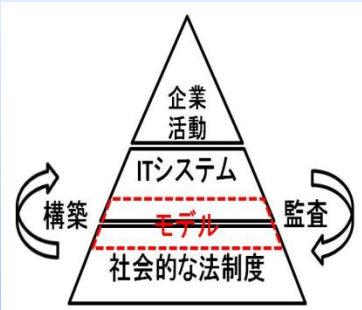
komoto.takafumi@toshiba-sol.co.jp

ITシステムの法制度への遵守性



ITシステムは、社会的な法制度を遵守できているか？
気がつかないうちに、逸脱していないか？
悪意を持った逸脱を、監査できているか？

法制度のモデル化による解決



社会的な法制度をモデル化し、検証されたモデルに基づいてITシステムを構築し、監査したい。まず、『Secure Troposによる内部統制のモデル化』を試行した。

内部統制

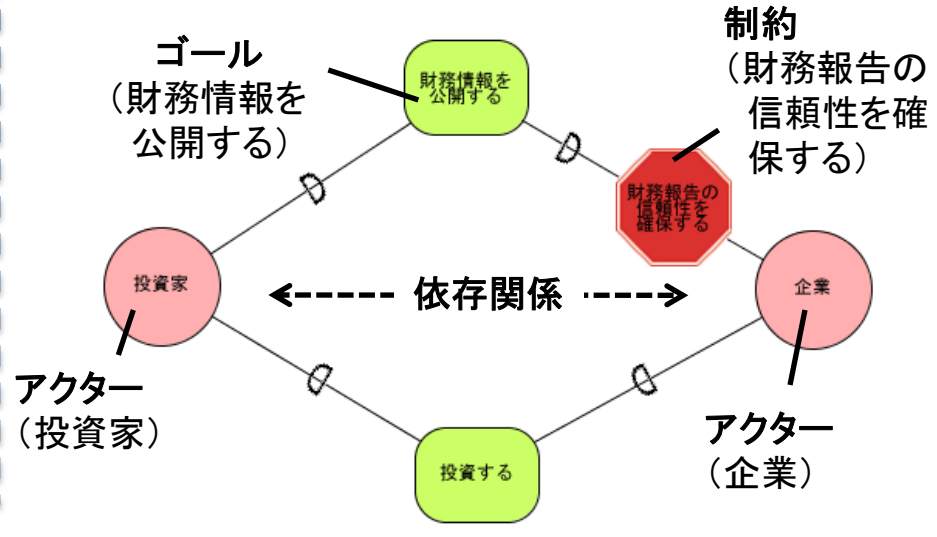
背景
市場から公正に資金を調達するために、信頼し得るディスクロージャー制度を確保する必要。

手段(3つの柱)
会計基準、監査基準を強化し、さらに財務報告の作成プロセスである内部統制を強化する。

モデル化の対象
内部統制の4つの目的のうち、「財務報告の信頼性」を、内部統制を構成する6つの基本要素のうち、「ITへの対応」を、モデル化する。

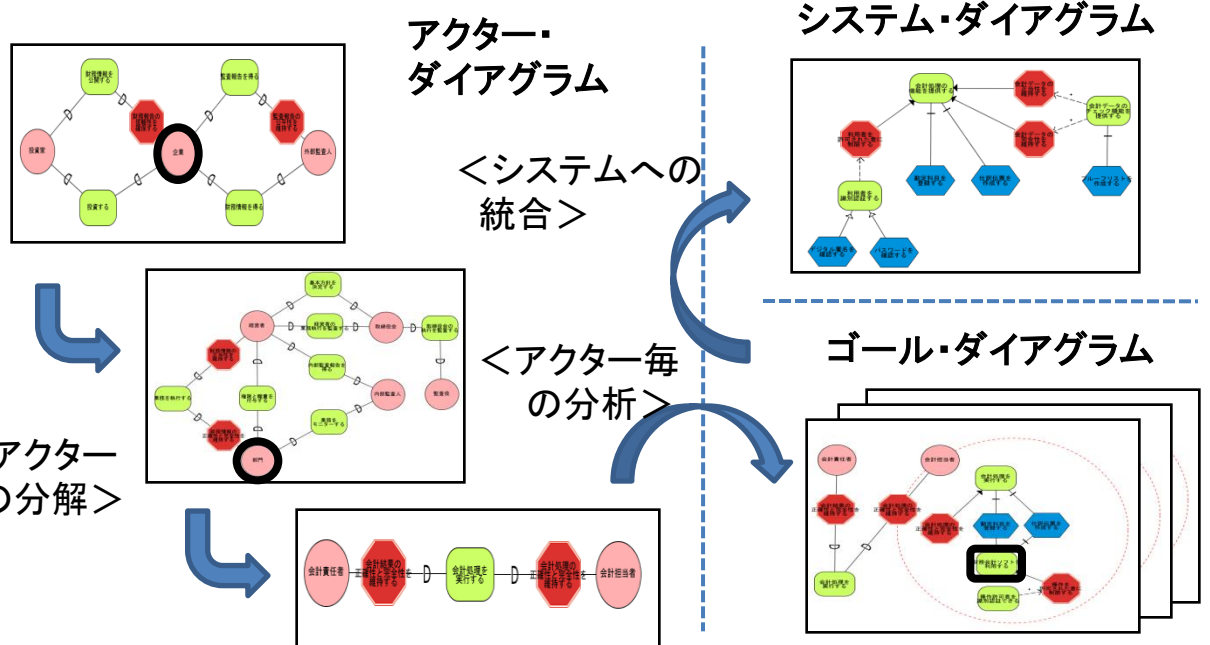
セキュアトロポス

元々、分散処理システムを、人間社会を模して表現し、分析する手法。このため、社会制度の表現、分析に相性が良い。



ゴールを達成するための、アクター(ステイクホルダー)間の依存関係を表現する。ゴールを達成する上で、アクターに課される制約を記述できる。

モデル化



実用化に向けて

- ◆ secureTropos 提唱者の H., Mouratidis (East London Univ.) 先生のコメント
 - ・secureTroposの事例研究は大切。
 - ・アクター・ダイアグラムの階層表現が有効な適用事例を示してほしい
- ◆ 公認会計士殿の評価
 - ・アクターの非機能要件を制約で表現するのはわかりやすく、モデル化の着眼点は良い。
 - ・アサーションについて、深入りしない範囲で、考慮が必要。
 - ・実務に適用して、改善点を探っていくべき。